エピソード27
子どもはお母さんの前では
いい子です。

なみちゃん
　小学校教師として25年以上の経験があります。
エデュサポネットのファシリテータです。

COPYRIGHT © 2021 UEKI Katsumi, HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION all rights reserved.

小学校の中学年を担任していた時の
経験をお聞きします。

みよ子さんは、あまり笑わない、
落ち着いてクールな感じの女の子でした。

話し方がキツいので、怒っているように
聞こえたり、目つきが険しく「みよ子
ちゃんににらまれた。」と訴えてくるなど
女の子同士のトラブルがよくありました。

先生はどのような対応をしたのですか。

家庭とも連携したいと思い、学校での
みよ子さんの様子を、家庭訪問の時に
お母さんにお伝えしました。

するとお母さんは、家でのみよ子さんが
いかにいい子か、私に話してくれたのです。

先生は、お母さんのお話を
聞いて、どう思いましたか。

みよ子さんの態度が、学校と家庭で
違うのはどうしてだろうと思いました。

それで、前担任や同好会の先生など、
みよ子さんに関わっている他の先生にも
話を聞いてみることにしました。

わかったことがありましたか。

みよ子さんのお母さんが再婚し、
まだ幼い弟がいることがわかりました。

同好会の先生は「みよ子さんは、できない
ことがあっても、他の子のように聞きに
来られないんだよね。」と教えてくれました。

先生は、得られた
情報をもとにどうしましたか。

他の先生たちと、みよ子さんの支援に
ついて話し合うことができました。

家庭に赤ちゃんがいるので、がまんしたり
お手伝いをして、いいお姉さんになろうと
がんばっているのではないかと話しました。

先生は、みよ子さんにどのような
支援が必要だと考えましたか。

そんなみよ子さんに、学校では
どんな支援ができるか話し合いました。

今までは、トラブルのたびに言い聞かせる
指導をしてきましたが、みよ子さんの
いいところを見つけて、たくさん褒めよう
という方向性がみつかりました。

みよ子さんの様子に変化が見られましたか。

徐々に笑顔が増えて、トラブルが減っていきました。わからないと「教えて」と聞くこともできるようになってきました。

注意を受けることが多かったみよ子さんが褒められることで、友だちの見方も変化し、接し方が暖かくなったように感じました。

なみちゃんの一言

- 子どもにとって、家庭が安心できる場所であることはとても大切です。でも、どの家庭にもさまざまな事情があり、学校には見えてこないものです。
- 学校と家庭が、子どもを核にして連携していくことが必要です。
- また、子どもを複数の教師の目で多面的に見て、必要な支援が適切にできるといいですね。

お・し・ま・い

なみちゃん

ナレーション　浪岡美保
（北海道教育大学大学院 修了生）

イラスト　尾上樹里
（北海道教育大学 大学院生）

COPYRIGHT © 2021 UEKI Katsumi, HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION all rights reserved.